

十勝の金融経済概況

1. 全体感

十勝の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から弱い動きとなっている。すなわち、公共投資は、緩やかに増加している。設備投資は、高水準で推移している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。個人消費は、一段と弱い動きとなっている。生産は、持ち直している。雇用情勢をみると、労働需給は引き締まっている。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症拡大の帰趨、管内の経済活動全般に及ぼす影響などを注視していく必要がある。

2. 最終需要の動向

公共投資は、緩やかに増加している。

3月の公共工事請負金額は、2か月連続で前年を上回った。

設備投資は、高水準で推移している。

主要企業の設備投資計画をみると、19年度は前年を下回る計画となっている一方、20年度は前年を上回る計画となっている。この間、農業関連などでは、引き続き新規投資がみられる。

2月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年を大幅に上回った。

住宅投資は、弱めの動きとなっている。

2月の新設住宅着工戸数は、持家が前年を下回った一方、貸家が前年を上回り、全体でも前年を上回った。

個人消費は、一段と弱い動きとなっている。

2月の主要小売店の売上高は、衣料品、身の回り品が前年を下回ったものの、食料品が前年を上回り、全体では5か月振りに前年を上回った。

耐久消費財をみると、自動車販売（乗用車新車登録届出台数、3月）は、普通・小型乗用車、軽乗用車ともに前年を下回り、全体でも6か月連続で前年を下回った。2月の家電販売は、衛生関連商品が好調であった一方、季節性商品や

テレビ、白物家電の売れ行きは低調であった。

旅行・観光関連をみると、2月の市内ホテルの宿泊人数および主要温泉地の宿泊人数は、北海道ふっこう割の効果により増加した前年の反動に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による入り込みの減少を背景に、前年を下回った。また、足もとでは、同感染症の影響による落ち込みが深刻化している。この間、2月のとちぎ帯広空港の乗降客数も、前年を下回った。

3. 生産・雇用・企業倒産の動向

生産は、持ち直している。

2月の生乳生産量は、17か月連続で前年を上回ったほか、2月の乳製品生産量も、好調な生乳生産を背景に6か月連続で前年を上回った。また、2月の産糖量は、前年を上回った。

2月の製材品生産量は、前年を下回った。

雇用情勢をみると、労働需給は引き締まっている

2月の有効求人倍率（常用）は、24か月連続で前年を上回った。

企業倒産は、総じて低水準で推移している。

3月の企業倒産（負債額10百万円以上）は、倒産件数、負債総額ともに前年を上回った。

4. 金融情勢

帯広市内金融機関の実質預金残高（2月末）は、流動性預金を中心に増加している。

貸出残高（2月末）は、前年を上回った。

貸出約定平均金利（2月末、総合）は、銀行、信金ともに前月を下回った。

以 上